案山子の交友録

忘れられない人がいる。忘れたい人もいる。
人間稼業 70 年も経つと、いろいろな人に巡り会うものだ。
道を究めた人、道なかばにして夭逝した人、
青春を力いっぱい駆け抜けた人、
人生を老獪に生きぬいた人
様々である。

案山子の人生において
運命の糸に手繰られて、接点を持ち
苦楽を共にした人、そんな知人、友人の中で、
ここでは社会の一遇に大きな足跡を残した
故人をご紹介して、
Wikipedia とは異なる、人間としての側面を記してみたい。

人が亡くなるということは、
その人間が持っていた、すべての可能性を
この社会が失うことに他ならない。
何かを創造する力、何かを育てる力、何かを愛する力、
何かを描く力、何かを奏でる力･･･
瞬時にしてすべてのものが失われ、もう地上には還らない。
残念である。

人間は亡くなって初めて、故人の心の広さや、
人間としての素晴らしさを
身を持って気付かされることも少なくない。
だが故人の魂は、大地を離れて天に返る。
命がこの宇宙からの預かり物であったことを、痛感させられる
瞬間である。

このページは案山子の人生で、
心に残る無念さから滲み出た、人間賛歌であり鎮魂歌である。
故人のご冥福を心からお祈りしたい。

《敬称は一部省略させて頂ました》

2015.05.10.　山田案山子